



グローバル化された時代において、「先進性」を持つとされる教育モデルはかつてないほど国を越えて参照されるようになってきている。こうした流れを受けて、近年「日本式」教育をめぐる内外の状況も変化している。すでに日本の教育モデルとして「授業研究」が国際的に実践されているが、ここ数年人間形成の観点から「特別活動」が社会性・感情面の育成に有効だとして世界的に注目を浴びている。昨年12月5日のシンポジウム「21世紀教育モデルの構築—『日本型』教育モデルの国際的可能性と課題を問う—」では、こうした動きの初期段階の状況を分析した。本年度のシンポジウムにおいては、最新の状況について報告・検証してゆくと同時に、教育モデルの国際発信の歴史が長いフィンランドやシンガポールからの示唆を得る。

- ・エジプトでは、エジプト政府とJICAの主導で、「Tokkatsu + (プラス)」と名づけられた「日本式」教育の導入が進められている。その最新の報告と分析を、映像を用いながら報告する予定である。
- ・シンガポールでは、学校に掃除が導入され、日本式教育がモデルの一つとして実践されている。シンガポールでの教育モデル借用の事例について映像を用いて分析し、「日本式」教育モデルの国際化に見られる現象や理念について課題と可能性の双方を考察する。
- ・国によっては教育モデルの発信が国家的性格を帯びたり、「ビジネス」として成り立ったりするなどの特徴が見られる。フィンランドやシンガポールにおいて教育モデルの国際発信に実際に関係してきたキーパーソンにより、その事例を紹介する（同時通訳、字幕あり）。
- ・日本政府による「日本型」教育の海外展開の動きについても、フィンランド等の事例と比較しながら考察する。